

会員のみなさん、こんにちは。春が駆け足でやってきて、初夏を思わせる日もあるようになりました。3月中旬には東北地方で地震が発生し、新型コロナウイルスの流行状況も落ち着ききらぬなか、不安な日々を過ごされた方には心よりお見舞い申し上げます。糖尿病患者さんが被災された時のための情報が、日本糖尿病協会のHPにまとめられていますので、この機会に再度ご確認くださいね。

(https://www.nittokyo.or.jp/modules/information/index.php?content_id=170)

ここでお知らせですが、4月の糖尿病公開教室はお休みにになります。5月からは毎月開催を予定しておりますので、ふるってご参加ください。また、毎年春におこなっておりますつかさ会総会・講演会を、今年は現地とオンラインとでハイブリッド開催を予定しております(感染症の流行状況によって変更の可能性があります)。別紙案内を同封しますのでご確認くださいね。

さて今回は、岐阜大学医学部附属病院西7階病棟の今尾 優花看護師に「さかえ」の読みどころを紹介してもらいます。

つかさ会のみなさん、はじめまして。3月号を担当します、西7階病棟看護師の今尾です。春がやって来たと思ったら、急激な気温差の気候となりました。日々、体調に気を付けながら新年度をお過ごしください。

さて、今月号の「さかえ」の特集ですが、特集1「難聴と糖尿病(P.5)」、特集2「脂肪肝の新しい概念 MAFLD とは?(P.18)」となっています。まずは特集1は「難聴と糖尿病」です。糖尿病患者さんに多いとされる難聴は、認知症にも関わりがあるといわれています。難聴は主要な糖尿病合併症であるとは考えられていませんが、糖尿病の有無で難聴者比率を検討した疫学調査によると、糖尿病群では非糖尿病群と比較して難聴者の比率が高くなっていることが明らかとなりました。また、アメリカの疫学調査でも同様の結果が示され、さらに、特に高音域の難聴と糖尿病との関連が強いことがわかりました。なぜ糖尿病は難聴の発症に影響を及ぼすのでしょうか?その答えが気になる方は、P.9に記載してあるのでご一読ください。続いて特集2は「脂肪肝の新しい概念 MAFLD とは?」です。MAFLDとは、糖尿病や肥満などの代謝異常を合併している脂肪肝のことです。糖尿病患者さんは脂肪肝を合併していることが多いとされており、MAFLDの基本治療は運動療法といわれています。P.22に絵で肝炎体操がわかりやすく紹介されているので、興味のある方は是非目を通してみてください。

今月も『さかえ』をご覧いただき、ありがとうございました。感染症の流行だけでなく、花粉症も気になる時期です。外出の際はマスクの着用と帰宅時の手洗い・うがいを忘れず、お元気にお過ごしください。

※ 今月は会費請求作業もあり、『さかえ』のお届けが遅れましたことをお詫び申し上げます。